

広報たかつき

知る 広がる 好きになる

TAKATSUKI

Days

令和8年

3

No.1456

やさしい場所、
つながる場所

Pick Up

- 10 教育レポート 探究する力で未来を創る
- 14 ぶららぼが育てる つながりの輪
- 19 危機管理センター供用開始
- 20 窓口の混雑回避にご協力を

Place
1

地域への愛着を育む 人とふれあい、つながる楽しさ

福寿マルシェ

高槻城の城下町近くにある福寿舎は、築約120年の町家をリノベーションしたシェアアトリエ。平成30年から年2~3回、春秋は野見神社でも開催される「福寿マルシェ」は、ハンドメイド好きが集まる手作り市だ。



バラエティ豊かな手作り雑貨は「こだわりがある作家ばかりでレベルが高い」と評判。目当ての作家がいる客も多数

福 寿舎の軒先や施設内に、ハンドメイド作家やスイーツの人気店が出店するブースが立ち並ぶ。町家という場所柄が、どこか昔の「市」を彷彿とさせる雰囲気。出店者が笑顔で客を迎えると、ハンドメイド好き同士の会話が弾み「この感じが好きなら、あの店もおすすめ」と、買いまわりの楽しさが広がる。一方で、出店者同士が作品展示の見せ方や工夫を語り合うなど、交流も盛ん。つながりが広がっていく。そもそも福寿舎自体が、食やクラフトなどの「つくり手」が入居し、交流を通じて高槻を盛り上げる何か生まれる場となることを目指した施設。城下町だった高槻のにぎわいを見つめてきた町家で生まれた福寿マルシェは、地域に根ざしてきた野見神社も会場に。今や高槻を代表する手づくり市のひとつとして、歴史と地域が交差する空間で、新たな魅力を育んでいる。



アットホームで、出店者も客もすぐに仲良くなれる距離の近さが福寿マルシェの魅力



福寿マルシェ 福寿舎（城北町）、野見神社（野見町）
高槻ならではのモノ・仕事・文化をつくる場として活動する福寿舎が主催する手作り市。建物の紹介を兼ねたイベントから始まり、平成30年から作家をメインにした現在の形に。地域密着型らしい親しみやすさも持ち味



かねてから交流があった野見神社での開催も令和5年からスタート



境内のマルシェは緑日感が楽しい



「引っ越してきたばかりのときにここに来たことで高槻の友だちができ、出店者とも仲良くなりました」



「このマルシェでいろいろな人とつながれて、情報交換するのが楽しいです」



手づくりおやつやフードトラックの出店も

「ここに来ると必ず会える、マルシェ好きの友だちがいます」



「近所だから、散歩がてらふらりと寄れます」

歴史を汲む空間が心地いい大人のマルシェ

「年齢層が広くて、にぎわっていても落ち着いた雰囲気」



話しやすいよう初参加と常連は隣合わせに

マルシェを運営する永井文裕さん。出店者の選定から配置、展示方法まで目を配り、サポートする

クリエイターによるワークショップも



「歴史ある町家だからか、雰囲気がとてもいいんです」「ゆっくりできます」

Place
2

どこか懐かしくてどこか新しい 日常のすぐそばにある**非日常**

KUU JOY! BASKET

「高槻にこんなところが!」。築約100年の古民家カフェを切り盛りするのは、5児を子育て中という店主。手仕事への愛に満ちた空間には、日常をひと休みしたい人々を惹きつける秘密があるようだ。



店は路地の突き当たり。目印は果樹と田んぼと線路

路 地に迷い込むようにたどり着いた、田んぼの脇に佇む一軒家。畦道の先には線路と青空。どこか懐かしい景色に誘われ、一人、また一人と客がやってくる。古民家を改装した小さな店は、やわらかい光が差し込む和モダンな空間。サーモンピンクの壁のキッチンでいねいに作られるのは植物由来の食材で作る料理とスイーツ。穏やかな会話の合間に響く電車の音に、物語世界に迷い込んだ気持ちになる。店は元レンタルキッチン。ジブリ映画の登場人物にちなんだ名を持っていたこの場所には、初めからゆるやかな時間が流れていた。仕事や子育て、家事などで忙しい日常生活が消え、非日常に入り込む感覚。よく知る高槻の景色も、この店の窓から眺めるとすてきに見えてくるのはなぜだろう。笑顔の店主とともにこの場所は、「自分」に還りたい人の訪れを待っている。



KUU JOY! BASKET (安満新町)

安満遺跡公園から徒歩約10分の隠れ家カフェ。レンタルキッチンとして貸し出されていた「おそのさん」というスペースで不定期開催していた1DAYカフェ&マルシェが始まり。さまざまな人との出会いに背中を押され、通年営業の店に



店主が愛するカゴがあちこちに。販売品もあり

やさしい時間に心ほどける小さな隠れ家喫茶室



エビフライに見えて実は……

「自分では作らない体にやさしい料理をゆっくり味わうのが楽しみ」
「料理が出てくるのを待つ時間も癒やし」



店名の「KUU」は店主・竹本果奈子さんの幼い頃の愛称。自身がこの場所の一番のファンだからこそ、理想の過ごし方ができる店を作りたかったと語る



「行きたくないというよりも、帰りたくない場所」「ここは私の秘密基地! ひとりの時間が欲しいときにボーッとしに来ます」



電車の音もBGM

「息抜きしたいときにここに来ます」「小さくても開放感ある空間が心地よく、つい長居してしまおう」

イメージはピクニック



1DAYの時代から前の庭などで開催していたマルシェも季節ごとに開催

Place
3

居合わせた人をつなぐ 鉄道を眺めて過ごすワクワク感

Railside Cafe

JR・阪急合わせて5つの駅がある交通至便のまち・高槻に、鉄道模型が走るカフェがある。鉄道ファンはもちろん、電車好きの親子や地元の人を訪れる空間では、車両の動きを追ううちに、みんな不思議と笑顔になっている。



四季に合わせて
風景をチェンジ

店主の西垣建志さん。「どんな車両にも合わせやすい」と評判の運転コースも、細かな情景まで作り込まれたジオラマも手作り。現在も進化中とか



「引退した車両や特定の地域の車両と一緒に走っているなど、実際にはありえない光景が楽しめるのも魅力」

扉を開くと目に飛び込む大きな鉄道模型。居心地のいいカフェ空間のカウンター席に沿うように、Nゲージ*車両が駅前から自然豊かな郊外へと線路を走っている。高架線には新幹線が通過。精巧なジオラマを前にすると、思わず童心に帰り、ベストショットを撮りたくなる。

さまざまな列車が行き交う高槻は、鉄道好きにはぴったりのまち。JR摂津富田駅前の、まさにレールサイドにあるカフェは、大人の鉄道模型ファンが自分の車両を走らせ楽しむだけでなく、小さな子どもたちや、喜ぶ子どもを見守る親にも心躍る時間をくれる。店主やファンとの会話から、鉄道模型の奥深い世界にふれることも。居合わせた人同士で会話が始まり、一緒に盛り上がることもめずらしくないのだそう。この場所には、鉄道がつなぐ人と人との温もりがある。



地上4線、高架2線が走る鉄道模型線路で、さまざまな車両を自由な編成で走らせることが可能。列車がトンネルから出てくる瞬間はシャッターチャンスのひとつ

Railside Cafe (大畑町)

鉄道模型の運転コース(レイアウト)をレンタルし、持ち込んだ車両の運転や、店の車両を借りた運転が楽しめる。多くの人に鉄道模型の魅力にふれてほしいと年齢制限はなく、ライトな鉄道ファンやカフェだけの利用も歓迎



カシオペアを
けん引していた
EF81形94号機!



市営バス
発見!



広々とした
コースを運転する
のも楽しみ

※有料

富田ジャズ
ストリート
の会場にも



親子Nゲージ運転会やミニジオラマ作りのワークショップなどを開催。子どもの誕生会など貸し切りもOK

親子連れもウエルカムな 鉄道模型のカフェ



「走らせるだけでなく、店主さんや他のお客さんとしゃべったりするのが楽しい」「子どもが鉄道模型に大喜びしてる姿を見るのが好き」

遠方から訪れる
ファンも多数



プリン
は
王将戦の勝負
スイーツに

固めのプリンやクリームソーダなど純喫茶の定番メニューが充実。肉のうまみが凝縮したミートソースも推しメニュー



「鉄道模型歴20年以上の店主さんは気さくで、知識量もすごい!」

